

■今月の特選句

2012年10月号

人の上人を作りて天高し

酒井鹿洋

福澤諭吉先生のお言葉、「天は人の上に人を作らず」は、現実離れしているとばかり、真実追究裏切りバージョンで一句にまとめて洒脱。

もつと高く噴水重力に勝つ

秋月裕子

噴水の擬人化。重力に逆らって高あがる噴水を評価した句であるが、結局、頂点には挫折がある。「噴水の頂点にある挫折かな」というわけ。

首吊るに程よき高さ蜘蛛の糸

小泉花子

蜘蛛の囿の高さを詠んだ句は無いから、この句は後世に残る。首吊る高さと思いがけない発想がいい。「蜘蛛の糸縋ひて首吊る根気かな」。

この下に活断層や花野行く

石川節子

この句は、句リニックに提出されたもので、原句は「花野ゆく活断層など知らぬまま」でした。「知らぬまま」より「知りながら」が可笑しいものと添削。

友だちの友だちはみなゐのこづち

下嶋四万歩

その種子は、誰にでも「ひつつく」人見知りしない植物。孤独な友人が野山を歩き戻ったのでしょうか。友達を沢山連れてきたが、みんなイノコヅチ。

子子の漢字に自由見て取れり

彦阪義久

子子(ぼうふら)の字源は、奴隷階級の子の逃亡を防ぐために左腕を切り取ったものとの説があるが、象形文字とすれば自由に屈曲の形。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

- ベビイには非ずじじいの天花粉
・・・じじいはこどもみたいなものよ
麻生やよひ
- 友の友話題めぐりて夜の長し
・・・ひととひととのつながりたのし
栗倉健二
- 新米に無視されてゐる古米かな
・・・古米も去年は無視する立場
井口夏子
- 夏草にボール隠されホームラン
・・・甲子園にも草を植えよう
宇佐美徹郎
- お互ひを見渡してをり川床座敷
・・・こんなときにも見比べる癖
加藤 賢
- 生りやうで気楽と見らる青瓢箪
・・・腰のくびれを悩んでをるに
小林英昭
- 煩惱数多短夜を長き夜に
・・・結局次の夜に持ち越し
高橋素子
- 褒められし後値切らるる大西瓜
・・・叩かれし後切らるるさだめ
ひがし愛
- 北斎の役者寄り目や京の秋
・・・役者はわざと寄り目してみせ
氏家頼一
- 老鷹や谷の無けれど谷渡る
・・・九十羽でも百千鳥てふ
三橋百笑

稲妻や法話の声の裏返る

・・・住職だとして雷はイヤ

金澤 健

せかせか食べる癖冷やしラーメンなのに

・・・熱々だったらちと無理じゃろう

鈴木和枝

人生訓読み飽きてゐる夜長かな

・・・そんなに長い人生訓か

日根野聖子

■今月の滑稽句

- | | | |
|------|--|----------------------|
| | 老懶の極楽とんぼ端居かな
暑気払い大ぶろしきの酔っぱらい | 青木輝子
青木輝子 |
| 【佳作】 | 猛暑にもめげぬ古妻かまびすし | 青木輝子 |
| | 老妻と少し酒など衣被
年ふるになにやら親し八つ頭 | 青山桂一
青山桂一 |
| 【佳作】 | 古稀過ぐもマイナス忌避のわが秋思 | 青山桂一 |
| | 腕組みし老いし夫婦の涼しかり
もくもくと雲峰をなし打つ木魚 | 秋月裕子
秋月裕子 |
| 【佳作】 | もくもくと雲峰をなし打つ木魚 | 秋月裕子 |
| | 鳩吹くや胸の谷間に風通る
応挙の忌谷中銀座の賑ひて | 麻生やよひ
麻生やよひ |
| 【佳作】 | 鳩吹くや胸の谷間に風通る
応挙の忌谷中銀座の賑ひて | 麻生やよひ |
| | 花野ゆく二人にちぐはぐな会話
女から告白をする十三夜
霧の海老いもケータイ依存症 | 足立淑子
足立淑子
足立淑子 |
| 【佳作】 | 花野ゆく二人にちぐはぐな会話
女から告白をする十三夜
霧の海老いもケータイ依存症 | 足立淑子 |
| | 菊人形矢張り平家の物語
松茸の会ふたび細くなりけり | 有富洋二
有富洋二 |
| 【佳作】 | 鍋奉行ここにも居たぞ芋煮会 | 有富洋二 |
| | 天の川に残り湯捨つるかぐや姫
馬鈴薯がポテトと呼ばれ出世する | 有吉堅二
有吉堅二 |
| 【佳作】 | 夏痩せかダイエットかと首かしげ | 有吉堅二 |
| | 尊しやたしかに害無きふかし芋
茸狩りの講積長し鍋奉行 | 栗倉健二
栗倉健二 |
| 【佳作】 | 茸狩りの講積長し鍋奉行 | 栗倉健二 |
| | 油照り揚げ物なんぞまっぴらよ
入道雲途中で腑抜け雨もなし | 安藤淑子
安藤淑子 |
| 【佳作】 | 切り売りで西瓜を賞味年金族 | 安藤淑子 |
| | 蝸と巫女の鈴とが呼応する
田も畑も蚯蚓が鳴いて売れもせず | 飯塚ひろし
飯塚ひろし |
| 【佳作】 | 渋柿や口に拵がるゴビ砂漠 | 飯塚ひろし |
| | 手榴弾の面もて苦瓜ぶらさがる
夕暮れの尾花の揺れや猷めく | 井口夏子
井口夏子 |
| 【佳作】 | 夕暮れの尾花の揺れや猷めく | 井口夏子 |

- 【佳作】 薄着して虫もつかぬと親嘆く
寒山酩酊拾得恍惚観音酒場
池田亮二
池田亮二
- 【佳作】 歩数計つけて気が済む体育の日
石川節子
- 鶏頭花少し派手目の赤かしら
芋鍋の汁まで喰つてしまひけり
板倉肱泉
板倉肱泉
【佳作】 蟻の列をとこばかりが働きて
板倉肱泉
- 九条を語り軍歌に秋深む
【佳作】 デパ地下でソムリエのごと新酒酌む
伊地知寛
伊地知寛
住職の婚活騒ぎ山粧ふ
伊地知寛
- 冬瓜と西瓜を買ったどう持とう
【佳作】 霧晴れて丸見えなりし隠れ里
伊藤浩睦
伊藤浩睦
霧吹いて市長法螺吹きなりし町
伊藤浩睦
- 種無しのやうに種ある西瓜かな
雪溪の汚れてゐてもなほ雪溪
【佳作】 渋柿や人の意見に同意せず
稲沢進一
稲沢進一
稲沢進一
- 【佳作】 帰省子や来るも帰るも突然に
井野ひろみ
真昼間や涼しき朝に騙されて
井野ひろみ
実家ではクーラー漬けの客となり
井野ひろみ
- あちこちに残る暑さの庵かな
【佳作】 O型の腕によろめく秋の蚊よ
今城夏枝
つくづく面白き世よ法師蟬
今城夏枝
今城夏枝
- 【佳作】 夏を鳴く滑稽滑稽烏骨鶏
入江澄泉
行水の童女に惚れる雀かな
入江澄泉
油付くだけで差別の蟬と虫
入江澄泉
- 在波（アルファ）も紅田（ベータ）出誕（データ）も
七五三
濁音はギゲゴゾドビベ寒鴉
宇井偉郎
【佳作】 糸瓜忌や何かと鉛筆舐める癖
宇井偉郎
宇井偉郎
- 放水路試し釣りして鰻釣れ
宇佐美徹郎
新蕎麦とあれば必注道の駅
宇佐美徹郎

- 【佳作】 柿好きに柿の木の無き子規の庵
交番に帽子が一つ神無月
氏家頼一
氏家頼一
- 独り身のひと味違ふ胡瓜もみ
いやなこと忘れ上手の生身魂
越前春生
越前春生
- 【佳作】 掛持ちの盆僧の乗るスクーター
越前春生
- 【佳作】 初芒毛を逆立てる子猫かな
増税決め腹で息する泥鰌かな
祝誕生ハート咲かせて大花火
大関のどか
大関のどか
大関のどか
- 朝採りの枝豆誰を呼ぶべきか
衣被盗み食ひして頬かむり
奥脇弘久
奥脇弘久
- 【佳作】 赤蜻蛉追ふ児もなくて行き戻り
奥脇弘久
- 暴飲の秋の蚊卓によるぼへり
【佳作】 敬老日どすの効いたる古時計
桑原の里遠巻きに秋の雷
笠 政人
笠 政人
笠 政人
- 日々太る雌穂ばかりの蒲となる
【佳作】 駈けてくる水着は吾が子眩しかり
加藤 賢
加藤 賢
- 芋畑つるは立派でも芋見えず
【佳作】 夏の薔薇咲くな咲くなと薔取り
夏バテの予防はひとつ昼寝かな
門屋 定
門屋 定
門屋 定
- 【佳作】 スカイツリーとその他大勢秋に入る
うだりつつ地球の傾き秋めけり
金澤 健
金澤 健
- ミンミンや命をかけて愛を呼ぶ
子子の屈撓運動ダイエット
川島智子
川島智子
- 【佳作】 反原発デモ粛々と蟻の列
川島智子
- 秋灯の本の中から参万円
【佳作】 風鈴や家康のごと風を待つ
レスラーの汗を交換残暑かな
久我正明
久我正明
久我正明
- ぶんぶんの鉄砲玉や的はづれ
【佳作】 密談の最中ならば蚊帳の中
うらがへり仮死までみだし金亀虫
工藤泰子
工藤泰子
工藤泰子
- 一物は各々違ひ豊の秋
黒田忠一

- 似合はない水着のせいじゃないかもよ 黒田忠一
- 【佳作】 八月の床屋の亭主無精ひげ 小泉花子
アラカン（アラウンド還暦）の女の気焰百日紅 小泉花子
- 二八そば友は一九とへそ曲 小杉 隆
【佳作】 股の蚊をたたき痴漢にされし友 小杉 隆
敬老日ちやんおつかあの昭和の児 小杉 隆
- 【佳作】 鳥威し世論調査によれば無駄 小林英昭
ぼちぼちと来てくんはれ生身魂 小林英昭
- 山の子は海へ海の子は山へ行く 齋藤八兵衛
少子化が体育館を広くする 齋藤八兵衛
【佳作】 コンビニに飼い慣らされる食文化 齋藤八兵衛
- 金金と五輪吾にも金二つ 酒井鹿洋
【佳作】 携帯を肌身離さず更衣 酒井鹿洋
- 裸児が逃げ大捕物の一家かな 佐藤古城
【佳作】 新涼にぶると老いの小用かな 佐藤古城
毫碌かはたおとぼけか生身魂 佐藤古城
- 五百円のギフトカードで「祝敬老」 佐野萬里子
【佳作】 一呼吸置きて鈴虫鳴きしきる 佐野萬里子
渴水のダム湖素通りはたた神 佐野萬里子
- 秋台風でつちり腰を直撃す 柴田真一
杖先を反り身で歩く枯蠅螂 柴田真一
【佳作】 ぼんと肩叩かれぶらりオデン酒 柴田真一
- そらされし話は追はず水中花 清水呑舟
【佳作】 暑気払ひ自説ゆづらぬ奴ばかり 清水呑舟
老いらくの恋にも似たり秋の虹 清水呑舟
- 老師去って隣は空家秋深し 下嶋四万歩
【佳作】 どうみても話はずまぬ蟹を食ぶ 下嶋四万歩
- 生身魂誉めあげサイズ聞く特技 壽命秀次
錦鯉やけに目につくたらこ唇 壽命秀次
【佳作】 蝶が舞ひ家庭菜園採点す 壽命秀次

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| | 腹六分禁酒禁煙生身魂
秋の蚊を慈母観音の前で打つ | 白井道義
白井道義 |
| 【佳作】 | 盤面に首を傾げて秋扇 | 白井道義 |
| 【佳作】 | コオロギになればいい熱帯夜
ピンと蜘蛛の巣はニュースキャッチ | 鈴木和枝
鈴木和枝 |
| | 薄い雲群れて飛んでる赤とんぼ | 鈴木哲也 |
| 【佳作】 | 路地裏を日傘をさして歩いてる
星月夜ラーメン食べてひとねばり | 鈴木哲也
鈴木哲也 |
| | 敬老日介護保険の満期間く | 高田敏男 |
| 【佳作】 | 敬老日杖一本の補強かな
万歩計付けて徘徊花野かな | 高田敏男
高田敏男 |
| 【佳作】 | ありがたきワインちびちび夕涼み
ゴキブリと格闘真夜の四畳半
吹き抜けた風小さい秋みつけた | 高橋マキコ
高橋マキコ
高橋マキコ |
| 【佳作】 | 柿喰わず梨を喰っても鐘は鳴る
新学期肩身の狭い日焼けの子
掌に余る桃尻いつくしむ | 高橋 都
高橋 都
高橋 都 |
| | 汗の手に金に同じと書くメダル | 高橋素子 |
| 【佳作】 | 滴りの落ち場所にさへ運不運 | 高橋素子 |
| | 始まるや「シテ」の面も蟬の尿 | 武智かずを |
| 【佳作】 | 瀬祭忌人の恋しき季かと思ふ
生身魂ザンバラ髪を苦と称ふ | 武智かずを
武智かずを |
| | 秋の空あの寅さんになりたいな
忘れ物あるかの様な秋の雲 | 田中章子
田中章子 |
| 【佳作】 | 耳の奥鍛冶屋になりし鉦叩 | 田中章子 |
| | 七夕やつぶやきのご褒美貰ふ | 田中 勇 |
| 【佳作】 | 秋めくのすらすらと句を詠めるかな
秋めくの図書館を我が書庫と化す | 田中 勇
田中 勇 |
| | 今日は冷や宣ふ夫の休肝日
零一つ多き夏帽ガラス越し | 田中早苗
田中早苗 |
| 【佳作】 | 生身魂探し物にて日の暮る | 田中早苗 |

- | | | |
|------|--|----------------------|
| | 香水の目的亭主知らざりし | 田村米生 |
| 【佳作】 | 竹の春つぎはパンダに生まれるの
松茸の秘密の場所は遺言に | 田村米生
田村米生 |
| | 撫子がロンドンの地に咲き誇り
夏休み終りて町に出るシルバー | 津田このみ
津田このみ |
| 【佳作】 | これが老い早き目ざめに秋を知る | 津田このみ |
| | 耳障り鳴かねば淋し秋の蟬 | 蔦恵 |
| 【佳作】 | なかんづく法の庭にも蟻地獄
いかづちの馬の背分ける雨の音 | 蔦恵
蔦恵
蔦恵 |
| | 悪酔ひの花も交りて酔芙蓉
板書してしばらく使ふ扇子かな | 飛田正勝
飛田正勝 |
| 【佳作】 | 敗戦忌怒らなくても怖い父 | 飛田正勝 |
| 【佳作】 | 梔子の実に少年の口重し
釣人を見下すやうに赤とんぼ
燈火親しや満腹の目蓋にて | 永島董玉
永島董玉
永島董玉 |
| | 昨夜また飲み過ぎました酔芙蓉
白桃や傷つきやすき我が心 | 西をさむ
西をさむ |
| 【佳作】 | あの人の来ずば用無しラ・フランス | 西をさむ |
| | 飛行士を宇宙へ送る豚蚊取
大阪のおばちゃんと来る丹波栗 | 原田 曄
原田 曄 |
| 【佳作】 | まはす指に首傾げたとんぼかな | 原田 曄 |
| 【佳作】 | 寄り道も近道もあり蟻の列
無くて七癖朝顔の蔓の先 | ひがし愛
ひがし愛 |
| | スマホには替えぬとポツリ生身霊
伊右衛門きりつと濃い目夏座敷 | 彦阪義久
彦阪義久 |
| 【佳作】 | 琴の音を虫に聞かせて虫供養
虫の声夜明けのスキヤットに終はる
猿山に犬の散歩か蟬囀す | 久松久子
久松久子
久松久子 |
| 【佳作】 | アナウンサー真似て音読秋の夜
長き夜や古事記に神の私生活 | 日根野聖子
日根野聖子 |
| | くつきりとパンツのかたち日焼けの子 | 広瀬雅幸 |

- 【佳作】 胆力の我に勝れる西瓜かな
ひたすらに続く金魚の世迷ひ言
広瀬雅幸
広瀬雅幸
- 【佳作】 朝顔や千代女うつろな午の口
御詠歌に発つ流燈へ正座の掌
枝豆を剥ぎつつ仲人よどみなく
藤岡蒼樹
藤岡蒼樹
藤岡蒼樹
- 【佳作】 麻酔かけ手術といへど昼寝かな
虹の空巨人現はるかも知れず
きゆうり折れ心折れたり曲つたり
藤森荘吉
藤森荘吉
藤森荘吉
- 【佳作】 夕立の飛び跳ねてゐるアスファルト
祖母のこと母のこと思う衣被
群の中婚活たいへん秋茜
藤原セツ子
藤原セツ子
藤原セツ子
- 【佳作】 重陽ぞ重陽ぞとて盃重ね
重ねればまことよく効く菊の酒
落ち穂拾ひ昔は子供今雀
前 九疑
前 九疑
前 九疑
- 【佳作】 羅の来て緊張のクラス会
竜田姫いま楽屋にて化粧中
まさみ
まさみ
- 【佳作】 露の世に露の身すだく白露かな
猿まねか人も肩組む秋の風
正岡の子規食ふ柿や客もなし
松尾軍治
松尾軍治
松尾軍治
- 【佳作】 なでしこの眩し過ぎたる夏終る
秋暑し品なき殿の無頼かな
処暑とやら熱中症の報しきり
丸山絃一
丸山絃一
丸山絃一
- 【佳作】 なるようになるしかならぬ旅霧の海
菜園は我が陣なりと飛蝗らは
腹囲り減らせとの沙汰敬老日
三塚不二
三塚不二
三塚不二
- 【佳作】 一服の間にも葛の手伸びてくる
盆経のかなふり読みて加はる子
三橋百笑
三橋百笑
- 【佳作】 思わずも一瞬つかむ油虫
マグネットサーモを吊るす熱帯夜
生業を問ひたき家や白木蓮
宮森 輝
宮森 輝
宮森 輝
- ばあちゃんの話しながら門火焚く
村上美和

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| 【佳作】 | 盆の月厠の窓に張り付けり
落日に命を託し花木槿 | 村上美和
村上美和 |
| | ぢいちやんは名うてのシンガー一盆の唄 | 百千草 |
| 【佳作】 | 父かと思ふ迎え火揺らせしは
正しさを言ふは淋しい草の花 | 百千草
百千草
百千草 |
| 【佳作】 | 鳥の群れ落ち穂拾ひの役目あり
真っさらの紙に落書き秋の雲
名月や親子三つの影並び | 森岡香代子
森岡香代子
森岡香代子 |
| 【佳作】 | 恋の夏ちょうちょう発止とつるむ蝶
犬食わぬ喧嘩反省終戦日
倫敦でドンドンあつくなる五輪 | 森 要
森 要
森 要 |
| 【佳作】 | 下手人はゆんべの風か破芭蕉
庭草を濡らしてあがり虫時雨
儉約と質素の元祖蓑虫は | 八木 健
八木 健
八木健 |
| | 蛆涌きし男やもめや詫手紙
茶柱や手前勝手に良夜とす | 八洲忙閑
八洲忙閑 |
| 【佳作】 | 有りの実や無尽蔵には狩り難し | 八洲忙閑 |
| | 大花火下界の魂を驚掴み
天空の星和え物に阿波踊 | 柳 紅生
柳 紅生 |
| 【佳作】 | 山もまた液状化せりかき氷 | 柳 紅生 |
| | 秋うらら飛びきり笑顔のお買物
草刈女美女のお尻の魅力かな | 柳澤京子
柳澤京子 |
| 【佳作】 | イケメンの猫の飛びつくねこじゃらし | 柳澤京子 |
| | 夏季五輪似て非なるかなかき氷
緑のカーテンとなりぬゴーヤの手 | 山下正純
山下正純 |
| 【佳作】 | 名は体も表しクーラークーラクラ | 山下正純 |
| | 空中の蚊掃除機ぐいと呑みこむ
はたたがみ爆竹のごと通過する | 山本けい子
山本けい子 |
| 【佳作】 | 口ぐちに「また来るからね」墓掃除 | 山本けい子 |
| | 向日葵をいつぱい描いて死んだ画家
夏雲かきなぐり梅原龍三郎画伯 | 山本 賜
山本 賜 |
| 【佳作】 | サイコロに切られ西瓜の自暴自棄 | 山本 賜 |

【佳作】 宰相の行く手つかめず道をしへ
国会の詭弁と詭弁喜雨の欲し
素裸とまごふ選手の五輪かな

横山喜三郎
横山喜三郎
横山喜三郎

【佳作】 介護士の腕借る坂や百日紅
わが老いし影の短き処暑来るも
そこ此処に蟬の骸や今朝の秋

渡辺さだを
渡辺さだを
渡辺さだを